

開拓財産 ～むかしのどうぐ～

その9：民具の調査
【番外編 2】



前は「ウナギ搔き」という道具をご紹介しました。今回は小学5年生から中学2年生（1952～1955年）ころまでウナギ搔きを使っていたY. Aさん（平取町在住、1941年生まれ）にお話を聞きました。

（左側写真）町民のY. Kさんよりお借りしたウナギ搔き。□の部分に柄が付いていた。本来の全長は1.5m程度と思われる。

問）ウナギ搔きはどうやって使いましたか？

答）1～2月にウナギを捕りました。ウナギは4支線（注）の湧水のあるところの土に頭を突っ込んでいました。川が凍っても湧水が出るところは凍らないため、バケツで氷を割り、うなぎ搔きで土を探ってウナギに引っかけます。しっぽか頭に引っかかると暴れますが、真ん中にかかるとぶらんとになって（ぐったりとして）捕まえやすかったです。手づかみをすることもありました。

（注）4支線とは…沙流幹線用水路から引かれた農業用水路。平取町の紫雲古津を流れている。（右図）

問）捕れたウナギの種類は？

答）ヤツメウナギとニホンウナギが捕れました。ヤツメウナギは魚のえさにしました。ニホンウナギは沼田旅館（日高町富川 1 丁目 1 に所在。現在は閉館）に売りました。

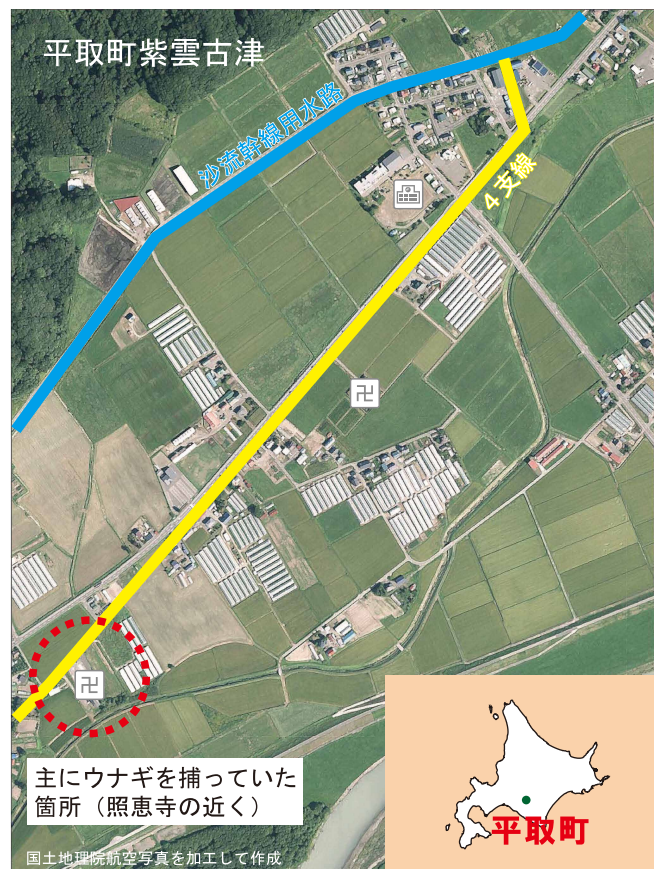
時代や環境の変化とともに平取町でウナギ搔きの使用は次第になくなっていき、その道具について知る人は現在ではわずかとなりました。

ウナギ搔きを貸してくださったY. Kさん、インタビューに応じてくださったY. Aさん、貴重な機会をありがとうございました。（廣岡絵美・小林斉子）

参考：平取町二風谷アイヌ語教室 1998『二風谷アイヌ語教室広報誌 第54号』「4支線（沢）でのウナギ捕り」



Y. Aさんによるウナギ搔きの実演。土の中のうなぎを探る様子を再現。



主にウナギを捕っていた箇所（照恵寺の近く）

国土院航空写真を加工して作成



開拓財産展示施設 見学のご案内



【開館日時】＊変更の場合あり

5～11月の月・水・金曜日（祝日休館）9:00～12:00

上記以外の日程のご見学についてはお問合せください。

【ご予約・お問合せ】

平取町立二風谷アイヌ文化博物館 ☎01457-2-2892

または

沙流川歴史館 ☎01457-2-4085